

**令和7年第4回姫路市議会定例会（未定稿）**

**令和7年12月4日（木）**

**○神頭敬介議員（登壇）**

姫路無所属の会の神頭敬介です。

通告により5項目の質問をいたします。

1項目めは、教育環境の未来について。

1点目、本年第1回定例会でも質問しましたが、姫カツの進捗状況について再度質問します。

少子化のスピードが予想より早く、今後、学校が統合され、さらに生徒数が減少することにより学校の規模も小さくなっていく中、運動部に加入している中学校の生徒数も全国で平成25年度では約234万人でしたが、令和5年では約186万人とマイナス20%、約48万人の減少となり、学校単位での運営がより困難な状況になってきています。

部活動を地域に展開することにより、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動を継承して親しむ環境を整備し、それによるまちづくりも期待できます。しかし、どの地域も様々な問題があるようです。

先日、あるメディアを見ていると、中学校クラブ活動の地域展開について特集をしていました。その中で、生徒の声として、「クラブ活動を続けたいが、自分の参加したい競技の施設まで距離があり、送迎や習うための費用を考えると個人の負担が大きくなり、親に迷惑をかける」とのことで、その生徒はスポーツを続けたいが断念したとの内容でした。

このような生徒が増えると、その後に続く高校、大学、社会人、プロフェッショナルへと続く、スポーツや文化芸術活動に携わる人が減り、それぞれに影響を及ぼす可能性が大きくなります。姫路市では、このようにスポーツや文化芸術活動を断念するような生徒を出さないような施策を考えていただきたい。

そこでお伺いします。

姫路市では生徒がスポーツを断念しないような助成制度を考えておられますでしょうか。当局の考えをお示ください。

2点目は、基礎トレーニング施設の利用条件の緩和についてお伺いします。

団体・指導者に登録されている連携団体の代表者の方から、「基礎トレーニングができる施設の利用について、中学生は体が発達途上で、けが防止のための筋力や基礎体力を強化することが必要です。そのためにトレーニング設備

が整備されている施設を利用したいが、市営のトレーニング設備は義務教育修了者から（高校生以上）と条例で定められており使用ができないのが現状で、姫路市内で中学生が利用できるトレーニング設備が整備されている施設は県立武道館に設置されているトレーニング設備しかない。」との声がありました。

姫カツ実施のタイミングで規制を緩和することで、姫カツの充実と施設の有効活用が実現でき、生徒の競技力、体力向上、器具を利用した科学的トレーニングによるけが防止、競技力向上につながり将来的にプロスポーツ選手やオリンピック選手等の誕生も期待でき、また、室内であるため天候に左右されず、夏場の熱中症対策にもなります。

市民の税金で運営されている公共施設の有効利用で利用率がアップし、公共性をより高めることができます。

そこでお伺いします。

この際、姫カツの実施に合わせて市営のトレーニング施設の利用者の制限を義務教育終了者（高校生以上）から中学生が使えるように条例の改正を提案したいのですが、当局の考えをお示ください。

3点目は、学習プラットフォームの活用状況についてお伺いします。

好きな時に、好きなことを、好きなだけ学べる家庭学習の環境をつくることを通じて、基礎学力の向上、教育環境の均等化、不登校対策の3つの目標達成を目指し、本年1月27日より提供を開始したメタバース型の学びの空間ですが、生徒がパソコン、タブレット、スマホからウェブサイトへアクセスし、自分のアバターにて4つのエリア、エントランスゾーン、学習ゾーン、コミュニケーションルーム、イベントゾーンを歩きながら学習できるテクノロジーを活用した、生徒の心がわくわくする学びの空間であり、学びの環境も日進日歩進化しているのだなと思うところであります。

今後の進化、変化に注目していきたいと思います。

令和7年1月27日より提供を開始されましたが、その時、中学校5校に先行導入するとのことでしたが、提供開始から約10か月が過ぎた今、学校数、使用者数の変化をお示ください。

次に、不登校対策が目標に上がっていますが、中学校不登校生徒への普及はいかがでしょうか。不登校生徒の使用者数、学習効果をお示ください。

また、提供開始後の学習内容についての今後の課題や修

正点をお示しください。

4点目は、本年第1回定例会にて質問しましたクラウドファンディングの成果についてお伺いします。

2024年12月2日より本年3月1日までの募集期間で始まったふるさと納税を活用したクラウドファンディングを利用した学校改革プロジェクトについて、昨年度は空き教室のリノベーションとして飾磨中部中学校の空き教室をコミュニティルームへの改修、城北小学校では壁面をホワイトボード化したプロジェクトルームへの改修と2校の空き教室のリノベーションが実施され、目標を達成できたことは非常によかったと思います。

教育予算の多くが古くなった学校施設の改修やその費用に費やされ、学習環境づくりに苦勞されている現状に大きく貢献する仕組みで、キーワードとされている共助にありますように対象に決まった学校のOBの方や地域の方、また、地域の企業が卒業校、地域の学校への学校愛、地元愛にて協力的にふるさと納税によるクラウドファンディングを支援されたとの声も多く聞かれ、目標の300万円を大幅に上回る700万円超えが集まり、市民の皆さんの注目も大きいのだと感じました。

11月26日の神戸新聞にも掲載されていましたが、2025年度も子どもの学校改革応援プロジェクト2025として既に開始されており、市内11校からの応募があり、子どもたちのプレゼンテーションを経て城東小学校、英賀保小学校、大白書中学校の3校に決まり、年内をめどに目標金額750万円の寄附を募っていますが、選考された3校の生徒たちは、自分たちで考えた学校改革の実現に向かってわくわくしていることでしょう。

そこでお伺いします。

今回2年目となりますが、昨年2校の事例から考えると応募校数が11校と少ないように思うのですが、応募の方法はどうか、応募校数がなぜ少ないのか、選定の基準等をお聞かせください。

また、このプロジェクトは子どもたちが自分たちで学校を変えていくことを考え、その内容をプレゼンテーションを行い選考されますが、それを通じて子どもたちの学校に対する向き合い方や考え方はいかがでしたでしょうか、当局の見解をお示しください。

2項目めは、見守り防犯カメラの設置と補助事業の見直しについてお伺いします。

本年8月に、神戸のマンションにて住人の女性がストー

カーにより殺害されるという痛ましい事件が起きました。また、神奈川県川崎市でも元交際相手によるストーカー行為の挙げ句殺害されるという事件も起こりました。

ストーカーによる犯罪も年々度を越した凶悪な犯罪へとエスカレートしております。神戸市の事件では犯人検挙に当たり、防犯カメラ映像のリレー追跡により、事件が起きた近隣ではなく東京都に在住する犯人を突き止め、逮捕にこぎ着けることができ、事件を解決することができました。

未解決事件のほとんどは見守り防犯カメラが世間に広まっていない時代に多いことを踏まえても、設置することの意義は大きいと思います。

以前より、当会派の私を含め妻鹿議員も過去に一般質問にて見守り防犯カメラの必要性を訴えてきましたが、最近の見守り防犯カメラの映像による事件の解決を受け、改めて見守り防犯カメラが注目されています。見守り防犯カメラの設置が目に見えて増えると、犯罪の抑制だけではなく犯罪の解決にも効果を発揮しています。

通学路の子どもの安全に対する見守り、市民を犯罪から守るための見守りには、やはり今以上に防犯カメラの設置が必要ではないでしょうか。設置するには、現在、姫路市の補助金が設置条件を満たした上で上限が6万円となっています。

その他、飲料事業者が展開している防犯カメラ付き自動販売機が設置、取付費用、通信費が事業者負担で、電気代は契約者負担となっていますが、こちらも設置するには厳しい条件となっています。

今後、見守り防犯カメラを設置する自治会、地域の自主防災組織が設置しようとしても人口減少により自治会費も集まりにくくなり、費用には限界があり、新しく別の場所にも設置したいが先に設置したカメラのメンテナンスに費用がかかり、思いどおりに設置できない現状もあります。

そこでお伺いします。

市民を守るために、見守り防犯カメラを設置するための補助制度の見直しについて当局の考えをお聞かせください。

3項目めは、大阪・関西万博開催中の観光誘致の成果とアフター万博についてお伺いします。

本年4月13日より10月13日までの184日間、大阪市夢洲で大阪・関西万博が開催されました。

入場者数2,557万8,986人と想定2,820万人には届きませんでしたが、2005年開催の愛知万博の2,204万9,544人を上回り、開催当初はパビリオンの設営の遅れなど問題多々ありましたが、多くの人に惜しまれながら有終の美を飾り終了しました。

姫路市では、本年度の主要事業として、観光資源の充実と魅力発信として大阪・関西万博、瀬戸内国際芸術祭の開催を契機としたプロモーションとして、姫路市への観光客を誘致するために姫路城の特別公開、Himeji大手前通りイルミネーション、高田賢三展等の取組、また、姫路城への誘客を図るために、時間予約制のデジタルチケットを試験的に導入し、観光客の利便性の向上等観光プロモーションを実施されました。

しかし、9月11日の神戸新聞に「万博客誘致県内肩透かし」の見出しで記事が掲載されました。

豊岡市の城崎温泉、神戸市の有馬温泉は前年比で訪れた観光客が減少、姫路市に限っては姫路城への入城者数は4月から7月開催期間の観光客の入数は約55万1,000人と前年比で4.4%増加したが、市内の観光関係者からは「万博から姫路に観光客が流れてくると期待していたが想定どおりではなく、好調とは言えない」との声も上がっているという記事でした。

そこでお伺いします。

大阪・関西万博の期間中に姫路市が万博会場等で開催した観光プロモーションの成果はどのように捉えられていますか。見解をお聞かせください。

また、今後、万博の効果を生かす取組として、姫路城クリスマスDAYや姫路城ナイトツアー、イルミネーション等が企画されていますが、非常によい企画と思っておりますが、大勢の人が集まり、にぎわいを創出するために、市民のみならず市外の方の入込数を増すためのアピールや宣伝方法、また、宿泊者を増やす方法について当局の考えをお聞かせください。

4項目めは、地球沸騰化への対応について質問します。

令和6年第2回定例会で質問しましたクーリングシェクターについての質問の中でも、気温上昇について触れましたが、平均気温が100年前当たりでプラス1.35度上昇し、30度以上の真夏日や35度以上の猛暑日が過去最高で夏平均気温偏差がプラス1.76度でした。

本年はさらに上昇し、日本の夏の平均気温偏差はプラス2.36度と歴代1位の高温となり、9月半ばまで猛暑日が続く、

群馬県伊勢崎では8月に41.8度と国内最高気温を記録しました。

また、兵庫県内でも柏原で7月に41.2度を記録し、年々少しずつ気温が上昇していると言われています。

9月にイーグレひめじで開催された環境と美化のついででの講演会「地球温暖化ってなに？ 私たちにできること」との表題にて、お天気キャスターの片平氏が講演されました。

その中でも、気温の上昇の原理、原因、我々ができることを説明されましたが、その時にも「地球温暖化を通り越して地球沸騰化状態です」と言われ、人間の体温が1度上がった場合を想像し、気温に例え、平均気温が1度上がることにより、考えられない気温の高温、豪雨や巨大な台風、竜巻など異常気象により災害も増えていくので気温上昇に対して危惧されていました。

我々も、今さらながらできること、例えば不要な照明は切っておく、エアコンの温度を適正に設定するなど、温暖化の原因である二酸化炭素等温室効果ガスの排出を抑制するなど、簡単なことですが、再度振り返り、実践し、気温の上昇など温暖化の進行を抑制するために身近なところから対処するさらなる努力が必要と考えられます。

そこで1点目の質問です。

姫路市ではゼロカーボンシティの推進として、身近なところで市民の脱炭素化の促進として住宅用宅配ボックスの設置支援、家庭用蓄電システムの普及促進、事業者の脱炭素化の促進として温室効果ガス排出量可視化支援、太陽光発電設備等の設置助成を促進していますが、それぞれ助成の実績、成果をお示しください。

2点目は、カーボンニュートラルの推進で公用車のEV化や公共施設LED化の取組状況をお示しください。

5項目めは、地域の道路整備 市道網干1号線について質問します。

本年6月に地域住民念願の市道網干17号線の拡幅工事が完了し、揖保川左岸線の生活道路の通行がスムーズになり、地域住民の皆様は交通の危険状態が解消されたことに対して非常に感謝されております。ありがとうございます。

さて、2014年に興浜地区から浜田地区へ通ずる市道網干1号線の揖保川に架かる本町橋は新しく架け替えられ、拡幅されて通行に支障はなくなりましたが、本町橋東側の道路が当時の諸事情により仮設道路となり、現在も変わることなくその状態が続いており、スムーズな通行ができない

状態です。

この道路が仮設道路から本設道路に整備されますと、市道1号線が網干区新在家より興浜地区を通り、浜田地区までが1本の道路として通じ、生活道路が整備され、また、市道1号線沿いやその付近にある片岡家、加藤家、大覚寺、山本家、水井家、不徹寺、龍門寺と続く網干地区が誇る歴史的建造物や史跡巡り等、まち歩きもスムーズにできるようになり、また、大勢の人が訪れることにより地域活性化にもつながる道路整備となります。

そこでお伺いします。

市道網干1号線本町橋東側道路の整備状況の現状と今後の予定をお聞かせください。

以上で、私の1問目を終わります。

#### ○石堂大輔議長

平山教育次長。

#### ○平山智樹教育次長（登壇）

私からは、1項目めの1点目、3点目及び4点目についてお答えいたします。

まず1点目、姫カツの進捗状況についてでございますが、生徒がスポーツや文化芸術活動を断念しないための助成制度につきましては、困窮世帯の負担軽減が必要と考えており、国や県の補助制度の動向も注視しながら適切な支援を検討してまいります。

さらに、生徒の移動手段につきましては、原則として自転車や公共交通機関を想定しており、移動の負担を少なくし、地域で子どもたちのやりたい活動を実現するため、より多くの活動拠点が確保できるよう、団体、指導者の募集に加えて、種目ごとに協会等と協議を重ねてまいります。

あわせて、中山間地域などの公共交通空白地帯につきましては、現在、スクールバスを活用した送迎の実証事業を行っており、利用状況等を踏まえて来年度以降の継続を検討いたします。令和8年9月からの地域展開に向けて、中学生の豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するための持続可能な活動環境を構築できるよう努めてまいります。

次に3点目、学習プラットフォームの活用状況についてでございますが、学習プラットフォームの利用は、開始当初の5校から、現在では市内全中学校37校へと拡大いたしました。利用者数につきましては、開始当初は約700人でしたが、11月末現在では約1万1,000人になっております。

また、不登校児童生徒を対象とした対話の場、D A ☆ B

A S Eを週4日実施しており、11月末までに延べ168人が参加しております。参加した児童生徒からは、「自分らしくいられる」、「次も楽しみにしている」といった前向きな声が上がっており、この学習プラットフォームが、不登校の児童生徒にとっても、安心できる居場所と学びの機会を提供できているものと考えております。

これまで、学習コンテンツの追加やイベントの充実を図ってまいりましたが、生徒の多様なニーズに十分に对应されているかという課題が残っております。

今後は、この学習プラットフォームの継続的な活用を促すために、生徒の思いや意見を丁寧に聞き取りながら、コンテンツの一層の充実に努めてまいります。

次に4点目、クラウドファンディングの成果についてでございますが、本プロジェクトにつきましては、校長会において事業趣旨を説明した上で、全ての小・中学校に対し募集要領を配布し、参加校の募集を行いました。

応募校数が少なかった理由につきましては、応募期間中に昨年度実施したクラウドファンディングによる改修がまだ完了しておらず、学校側が本プロジェクトの内容を具体的にイメージしづらかったことなどが考えられます。

今後は、改修後の教室やこれを活用した授業の様子等を示すなどして、より多くの学校から応募があるよう努めてまいります。

選考基準につきましては、「学校等にもたらす効果」、「子どもたちの関わり方」、「共感性」、「新規性」、「実現可能性」の5つの評価項目を設けており、その中でも特に「学校等にもたらす効果」や「子どもたちの関わり方」、「共感性」を重視して選考を行いました。本プロジェクトを通じて、児童生徒が主体的に活動し、新たな価値を生み出す力を育成することができると考えており、これは本市が推進している「姫路型・探究学習」にもつながるものと考えております。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

森スポーツ・道の駅担当理事。

#### ○森 健スポーツ・道の駅担当理事（登壇）

私からは、1項目の2点目についてお答えします。

本市スポーツ施設のトレーニングルームにつきましては、骨格や筋肉が未発達な成長期の身体への傷害リスクが伴うことから、義務教育修了前の利用を制限させていただいております。

利用者の安全を最優先に考えておりますので、利用条件の変更は現在のところ予定しておりません。

しかしながら、子どもの体力向上や競技力向上に向けた環境づくりは重要であると認識しており、本市を拠点とするトップチームや競技団体と連携したスポーツ教室事業やスポーツ体験会等を実施しております。

今後もこれらの取組を通じ、中学生をはじめ、子どもがスポーツに取り組める機会の充実に努めてまいります。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

村田危機管理担当理事。

#### ○村田 泉危機管理担当理事（登壇）

私からは、2 項目めについて、お答えいたします。

まず、見守り防犯カメラの設置についてでございますが、本市ではこれまで、自治会など地域の取組を支援する防犯カメラ設置補助事業により、今後、増大が見込まれる更新需要への対応を踏まえつつ、地域や警察とも連携しながら、通学路など、より防犯上必要性の高い場所への設置が進むよう取り組んでいるところであります。

また、過年度には、県内有数の繁華街であり防犯上特に必要性の高い魚町・塩町地区において、地域の負担が極力生じないよう防犯カメラ設置の上乗せ補助を実施しており、今後も地域や警察のご意見などいただきながら、必要性に応じて適切に対応してまいります。

次に、補助事業の見直しについてでございますが、現在、費用負担の平準化など地域の実情に応じた柔軟な対応を可能とし、負担軽減にもつなげていただけるよう、新年度からの新たな取組として、リース契約への補助を行う準備を進めているところであります。

また、防犯カメラのメンテナンス補助につきましても、地域の負担軽減や効果的な運用を図っていただくための重要な課題と認識しており、引き続き、様々な機会を通して、県などに補助制度の充実に要望するなど財源確保に努めつつ、補助事業の見直しを図ってまいります。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

大前観光経済局長。

#### ○大前 晋観光経済局長（登壇）

私からは、3 項目めについてお答えいたします。

本市への誘客に向け、大阪・関西万博の会場内でワールドパビリオンフェスティバル 2025 や兵庫県の市町の日

における姫路市の日への出展、秋田県横手市と水のつながりで出展したLOCAL JAPAN展、福岡市など 19 自治体と連携して実施した西のゴールデンルートDiscover Unknown JAPAN. などの機会を通じて、姫路城や書写山圓教寺などの観光施設や日本酒や菓子、皮革製品等の特産品等、本市の様々な魅力を広く発信いたしました。

姫路市内での受入れといたしまして、例年、冬に実施しておりますHimeji 大手前通りイルミネーションを万博期間中に実施したほか、本市出身の世界的デザイナー高田賢三氏の没後初の回顧展や姫路城特別公開などの特別イベントを実施しました。

また、神戸市と連携し、万博チケットを提示すると姫路市内の飲食店等で割引やプレゼントなどの特典を受けられる神戸・姫路ばんぱくーぼんなど、多様な取組を展開いたしました。

さらに、万博に来日したサウジアラビアの関係者を対象にファムトリップを実施し、万博後の観光誘客を見据えたプロモーションにも取り組んでおります。

これらの取組につきまして、大阪メトロの 13 駅構内や中央線御堂筋線の車内でのサイネージ放映によるプロモーション、インフルエンサーによる動画発信、姫路市や姫路観光コンベンションビューローの公式ウェブサイト、インスタグラムなどの SNS を通じて、国内外に幅広く情報を発信し、本市への誘客促進に努めたところでございます。

その効果といたしまして、姫路城の入城者数は前年に比べて微増しており、一定の効果が見られたものの、効果は限定的であったと考えております。

万博後の観光客増加に向けましては、現在、姫路城三の丸広場で開催中のDANDELION姫路城×NAKEDでは、テレビメディアによるPRに加え、二条城のイベントとのセットチケット販売を実施し、遠方からの誘客を図っております。

また、Himeji 大手前通りイルミネーション 2025 の点灯式では著名タレントを起用したほか、その他のイベントでも、首都圏を中心にテレビや雑誌等に向けた積極的なメディアプロモーションを展開しております。

さらに、姫路観光コンベンションビューローが宿泊施設や飲食店と連携し、姫路の地魚や地酒を楽しめる、おいしい姫路の旅キャンペーンを実施し、市内での宿泊促進を図っております。

加えて、オンライン旅行会社、いわゆるOTAでございますが、こちらで宿泊施設との連携を強化いたしまして、本市の魅力向上と宿泊需要の拡大を目的とした誘客プロモーションを行っております。

今後も引き続き、本市の観光振興と宿泊者数の増加を図り、観光消費額の増加に取り組んでまいります。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

三宅農林水産環境局長。

#### ○三宅和宏農林水産環境局長（登壇）

私からは、4項目についてお答えいたします。

1 点目のゼロカーボンシティの推進として実施している助成事業等の令和7年度実績につきましては、令和7年11月末時点で、住宅用宅配ボックス設置支援事業は381件、家庭用蓄電システム普及促進事業は242件、事業所用太陽光発電設備等導入促進事業は6件の460キロワットとなっており、今年度から新たに実施している温室効果ガス排出量可視化支援事業には12社が支援対象事業者として参加されております。

今年度新たなゼロカーボン施策として取り組みました住宅用宅配ボックス設置支援事業につきましては、多くの市民の方にお申込みいただき、7月に補助金交付申請額の総額が予算の上限に達しました。

宅配ボックスの普及は、利用者の利便性を高めるだけでなく、再配達抑制による配送事業者の負担減や温室効果ガス排出削減に寄与するほか、物流運送業界の働き方改革にもつながるものと考えられます。

このたびの事業実績を踏まえまして、さらに多くのご家庭で置き配を選択していただけるよう、今後、宅配ボックス設置支援事業の拡充を検討してまいります。

2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて、地球温暖化対策の普及啓発の強化を図るとともに、必要な施策の拡充等地域の脱炭素に向けた取組を一層充実させてまいりたいと思います。

次に、2点目のカーボンニュートラルの推進として実施している公用車のEV化、公共施設のLED化についてお答えいたします。

EV車など次世代自動車の導入実績は、令和7年11月末時点で、燃料電池自動車1台、電気自動車27台、プラグインハイブリッド車3台、ハイブリッド車10台で、合計41台となっております。今年度中にさらに電気自動車

9台とハイブリッド車1台の導入を予定しております。

充電設備の増設等の課題はございますが、引き続き公用車の次世代自動車への置き換えを推進してまいります。

次に、公共施設のLED化につきましては、公民館や市民センター等の大規模改修などの更新時にあわせて実施しているほか、令和7年度は計画的に順次進めている姫路市役所本庁舎と西保健センター等において工事を実施いたしました。

また、学校施設におきましては、市内小中学校の体育館アリーナの照明を水銀灯からLED照明への取替えが完了しており、今年度は、小学校5校、中学校3校の校舎等のLED化を実施しました。引き続き、公共施設のLED化に取り組んでまいります。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

柳本建設局長。

#### ○柳本秀一建設局長（登壇）

私からは、5項目の地域の道路整備 市道網干1号線についてお答えします。

市道網干1号線の事業は、国土交通省が施工する一級河川揖保川河川改修事業に附帯する重要な道路整備でございますが、現状は仮設道路として暫定的に供用しており、早期の整備が必要であることは認識をしております。

今年度は、当初設計時の図面等を照査し、国土交通省、公安委員会との再協議を進めるとともに、用地取得に向けた測量等を行っております。

今後は、境界確定後順次、道路用地の取得を予定しており、引き続き関係機関との協議・調整を進めつつ、地元自治会のご理解、ご協力を賜りながら早期の整備完了に向けて取り組んでまいります。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

14番 神頭敬介議員。

#### ○神頭敬介議員

それぞれ、ご答弁ありがとうございます。

それでは2問目を少しやらせていただきます。

まず、姫カツの推進状況の中で、この中でトレーニング施設の件なんですけども、兵庫県は使えるのに、姫路は使えない。

その理由が骨格とか体ができてない部分やと思うんですけども、今回募集されて専門のスポーツの方がそれぞれ

つくと思うんで、トレーニング方法なんかについても、熟知された方が指導に当たると思うんですね。その点から、使えるように市の施設もしたらいいんじゃないかと思うんですけども、その辺りどうでしょうか。

ご答弁をお願いします。

○石堂大輔議長

森スポーツ・道の駅担当理事。

○森 健スポーツ・道の駅担当理事

先ほどのご答弁の中で申し上げましたように骨格であったり筋肉の未発達という点は、日本アスレチックトレーニング学会誌であったりとか、あるいは国際オリンピック委員会のほうでも言われています。

また、富山県の射水市というところがありまして、その医師会のところ、私参考にさせていただいたんですが、成長期のトレーニング、筋トレ含めてですけれども、こちらについては障害の引き金になるので、どちらかという自重を使ったものがないということと言われています。

ですので、私どもとしてはやはり成長期の子どもの安全ということを第一に考えまして、今のところは高校生以上のご利用に限らせていただきたいと思います。

以上でございます。

○石堂大輔議長

14 番 神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

これから始まっていくことで、いろんなスポーツにプロフェッサー、指導者の方がついていくと思うんですけども、その中でやっぱり希望が出てきた場合に、何とか緩和して使えるような状態にしていればいいかなと思うんですけども、その辺りいかがでいかがでしょうか。

ご答弁をお願いします。

○石堂大輔議長

森スポーツ・道の駅担当理事。

○森 健スポーツ・道の駅担当理事

繰り返しの答弁になって恐縮なんですけれども、やはり、子どもの成長期ってのは、とても大事な時期でございます。

たとえプロの方であっても、医師の方であっても、トレーニング中の障害っていうのはやっぱり完全に防ぐことはできないものと思っています。

ですので、我々としては、そのトレーニングに長けた方がいらっしゃるかと思うんですけども、やはり子どもの成長のときの障害というのを、リスクを排除したいと考

えておりますので、今のところは、やはり中学生以下のご利用はお控えいただきたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

14 番 神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

ご答弁ありがとうございました。

これからの流れになってくると思うんですけども、もしまた、そういう意見等が出ましたら、姫カツとか始まりまして、よく話し合いをしていただいて、もし緩和ができるようでしたら、緩和もできるように進めていただければと思うんで、これはご要望しておきます。よろしくお願いします。

続きましてクラウドファンディングを利用した学校改革について、ちょっと 2 問目、話させていただきます。

去年は 2 校で 300 万円の目標で、今回は 3 校 750 万円と額が上がってるんですけども、この額が上がった根拠として、例えば見積りを取ったとか、いろいろあると思うんですけども、その辺りいかがなんでしょうか。

ご答弁をお願いします。

○石堂大輔議長

平山教育次長。

○平山智樹教育次長

お答えいたします。

目標額でございますけれども、昨年度は教育委員会として初めての取組で、どの程度の寄附集まるかっていうのがなかなか想定が難しかったことから、ある程度速やかに着手、実行できる範囲の金額を設定したものでございます。

結果として 700 万円を超える寄附金をいただくことができましたので、今年度はその実績も踏まえ、また概算経費を見積もった上で、目標額を設定したものでございます。

以上でございます。

○石堂大輔議長

14 番 神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

ご答弁ありがとうございました。

これから 1 年、2 年、3 年と回を積み重ねていくと思うんですけども、その中で、大体の、これぐらいやという金額が出てくると思うんですけども、最初から今年上がって、また上がって、どんどんどんどん増えていくような、そういうことはないように公平性を保っていただきたいなと

思いますんで、これはご要望しておきます。

続きまして 2 項目めの見守り防犯カメラの件なんですけども、市民の方の声として、今年もリレー追跡によって犯人が検挙される、逮捕されるという事件が結構あったんですけども、そういうところを踏まえて、やはりメイン道路とかまだ付いていない部分、街の真ん中は付いているんですけども、田舎のほう、我々の田舎のほうに行きますと、まだまだ付いてないところがたくさんあるんで、やっぱりそれを付けたいという意思が皆さん本当に強く持っておられます。

その辺あるんで、何とか補助金額等上げていただきたいなというのがあるんですけども、県とか国とかにお願いして、できないものかと思うんですけどもその辺いかがでしょうか。

ご答弁お願いいたします。

○石堂大輔議長

村田危機管理担当理事。

○村田 泉危機管理担当理事

先ほどもご答弁申し上げましたけども、県への要望、また県と連携をいたしながら、必要に応じた対応を行ってまいりたいと思います。

以上です。

○石堂大輔議長

14 番 神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

ご答弁ありがとうございました。

できるだけ、市民の思いというのは、それを酌んでできるだけ補助が増えるような方向を考えていただければと思います。これはまた要望しておきます。

最後になりましたけども、地域の道路整備、網干 1 号線についてですけども、道路の整備が完成しますと、網干に住む住民の利便性が上がるだけでなく、古民家巡りや史跡、寺社仏閣を巡るなど、観光客を呼び込むことも可能となり、網干地区のにぎわいですね、特に最近若い人たちが一生懸命、網干の活性を考えておりますんで、この道ができたらかかで、本当に思ってますんで、できるだけぜひ、早期の着工をお願いいたしまして、要望としておきます。

ありがとうございました。

○石堂大輔議長

以上で、神頭敬介議員の質疑・質問を終了します。